

3-2. NPO 法人しずくいし・いきいき暮らしネットワーク（岩手県岩手郡雫石町を中心とする岩手山周辺地域）

(1) アドバイザー派遣申請の背景

●地域の概要

しずくいし・いきいき暮らしネットワークがエコツーリズム事業を推進している雫石町は、名峰岩手山の南麓に広がる面積 609.01 km²、人口 17,277 人の農村地域で、エコツーリズムの推進は、雫石町を中心に南八幡平エリアと呼ばれる山岳高原域とその周辺の農村域、牧野域をも対象地域に考えており、県境を越えた秋田県の田沢湖や乳頭温泉郷などとの連携を進めている。

南八幡平エリアは、広く十和田八幡平国立公園に含まれる森林地帯や湖沼、山岳、溪谷を含む大自然域である。

南八幡平エリアは、「深田久弥の日本百名山」に選ばれている岩手山、八幡平や「花の百名山」に選ばれ秋田駒ヶ岳などの日本を代表する名峰が連なる山岳高原域で、高山植物の宝庫であり、深い溪谷や高層湿原、火口湖などの優れた自然がみられるほか、エリア内には乳頭温泉郷や松川温泉、網張温泉、玉川温泉、東八幡平温泉郷、後生掛温泉、藤七温泉などの名湯、秘湯が多く見られることから、多くの登山客やハイカーが訪れる人気の山岳エリアになっている。そして、南八幡平エリアの中央部には、白神山地ブナ林(世界自然遺産)にも匹敵する規模と自然度で、「葛根田ブナ原生林」と呼ばれる広大な森林溪谷域が広がっている。

この「葛根田ブナ原生林」は、北上川の支流葛根田川源流域に位置し、人里離れた深山にあって、森林の伐採はおろか、入山する人も稀であったことから、手つかずの原生自然が残されており、イヌワシやヤマネ、ニホンカモシカ、ツキノワグマなど多く野生生物が棲むほか、数多くの絶滅危惧種が生息する東北地方屈指の生態系ホットスポットである。

「葛根田ブナ原生林」のような生物多様性豊かな生態系ホットスポットは、同じく東北地方の白神山地ブナ林と並ぶ世界遺産級の自然の聖域として、固有の生態系や生物多様性を保全し、その資源価値を高めることで、エコツーリズムなどでの活用が可能であることから、大震災の影響もあり、経済面での復興が求められる東北地方(岩手県)にあって、自然遺産としてのワイズユース(資源性を保全・高めながらの活用)が望まれている。東北地方の秘境とされ、外来者の侵入を拒んできた「葛根田ブナ原生林」などの葛根田川源流域も、過疎高齢化が進み、地域住民が山に入る機会が少なくなる中、近年、大規模な林道建設などもあり、年を追うごとに登山や沢登りなどで県外からの入山者が増え、遭難事故の発生に加えて、車両の通行や入山者の高山植物の群落域や湿原域への立ち入りによる環境悪化が懸念されている。



●アドバイザー派遣申請の背景・これまでの取り組み

東北の名峰「岩手山」は、南部富士と呼ばれる秀麗な火山峰で、山麓の広がる牧場や水田農村地帯から大きく雄大に望むことができる岩手県のランドマークでもある。

また、激しい火山活動を繰り返しながら成長した巨大な成層火山であることから、変化に富んだ火山地形が見られる。

さらに、岩手山を源とする葛根田川(北上川の支流)の源流域から秋田駒ヶ岳、八幡平にかけての山地には、世界遺産「白神山地のブナ林」にも匹敵する広大な天然林域が広がっている。

岩手山は、日本を代表する美しい名峰であり、山岳としての雄大な眺望や大自然とあわせて、その山麓には緑豊かな農村地帯が広がっているにもかかわらず、観光といえば、冬のスキーや登山・ハイキング、山岳ドライブが主流で、観光客の減少傾向が続いている。

そのような状況の中、岩手山の南麓地域では、小岩井農場でのバスツアー(小岩井農場物語り)をはじめ、農業体験を取り入れた教育旅行などグリーンツーリズム、エコツーリズム、ニューツーリズムの動きが見られるようになり、NPO や地域住民、学識経験者が連携して、岩手山の美しい眺望や秋田駒ヶ岳、岩手山、八幡平と連なる火山性山岳とその山麓に広がる農村地帯の生物多様性豊かな自然環境を保全し、活用した環境保全型の観光により地域の活性化を進めたいという活動がはじまっている。

そのような状況のもと、しずくいし・いきいき暮らしネットワークでは、平成24年4月より、同じく富士山型名峰である大山や牧歌的農村景観が広がる蒜山地域で自然学校やエコツーリズム事業を展開しているグラウンドワーク大山蒜山との交流連携により、名峰の景観や地域の生物多様性を保全・活用したエコツーリズムの推進を進めており、昨年度は、内閣府の復興型地域社会雇用創造事業やエコツーリズム推進アドバイザー事業を活用し、伊藤延廣氏(裏磐梯エコリズム協会会長)、三木廣氏(富士山エコネット理事長)、橋詰元良氏(浅間山麓国際自然学校理事長)、中越信和氏(広島大学大学院教授)、大木公彦氏(桜島ジオパーク研究会会長)、坂元英俊氏(前阿蘇地域振興デザインセンター事務局長)、渋谷晃太郎氏(岩手県立大学教授)などを講師に招き、エコツーリズムセミナーや勉強会・調査会、研修会、ガイド養成などを行ってきた。

岩手山を中心とした南八幡平エリアは、原生自然的な環境が残る森林域、渓谷域のほか、山麓に広がる牧野域や水田農村域など里地里山の農村エリアである。南八幡平エリアのみならず、これまでのエコツーリズムは、ガイド・インストラクターがインタプリターとして自然解説や環境案内、自然体験アクティビティの指導を行う自然観察型、冒険(自然体験)型のものが主流で、国立公園内の湖沼群や湿原地帯、森林域、渓谷域などの原生自然的な環境や優れた景観が見られる大自然域・生態系域をフィールドとしたエコツアーであったことから、環境負荷を考慮して少人数でのツアーとならざるを得ず、また、その地に生育生息する野生生物への影響が懸念されている。

雫石町を中心とした南八幡平エリアにおいて進めている生物多様性を活かしたエコツーリズムは、地域住民やNPO が取組んでいる野生生物の調査や保全活動に参加する体験型ツアーであり、これまでツアーのフィールドとしてあまり利用されていなかった草原、牧場、里山雑木林、山里・人里、水田農村域、河川などでの生物多様性を保全する活動が体験プログラムとなることから、ツアーで利用できるフィールドが格段に広がるとともに、体験活動時間の長時間化による滞在時間の増加や訪問頻度増大などにより、宿泊客も増える。また、野生生物の調査保護や景観を保全する体験活動そのものによって、景観の保全や生息環境再生が進み、地域が魅力的になることから、来訪者の増大にもつながる。

火山国「日本」には、富士山、羊蹄山、大山、男体山、鳥海山、岩木山、木曾御岳、浅間山、・・・磐梯山、阿蘇山、桜島・・・など美しい火山性名峰(ふるさとの富士)が多くみられ、これら名峰は、その地方のシンボル、ふるさとの山、お国のランドマークとして、古来より多くの人々に愛されてきた。

一方、雄大で秀麗とされる日本の火山峰(ふるさとの富士)であるが、登山やスキー以外にはあまり観光利用され

ることがなく、かつて美しく名峰を仰ぎ望むことができた山麓域は、少子(過疎)高齢化など人口減少も進み、昔懐かしい農村の風景の消失とともに、生物多様性の低下も危惧されている。

そのような中、世界中で地域の生物多様性を資源として活用しようという動きも見られるようになっており、美しい風景や自然と共生する暮らし、固有の食文化などを生み出す生物多様性は資源である。

温帯域にあって生物多様性が豊かとされる日本の農山村には、昔懐かしい山里の風景の中に、今では珍しいとされる生き物が多く棲んでいるが、農地や山林、草原が荒廃する中でこれら野生生物の中には絶滅が危ぶまれているものがある。

本アドバイザー派遣申請は、豊かな生態系や美しい景観に恵まれた名峰地域において、これら絶滅の危機に瀕した野生生物やふるさとの風景を保護保全する活動に実践的に参加し、生物多様性の恵みとも言える地域の自然や景観、食を楽しもうという旅行スタイルの可能性などについて話し合い、名峰地域の山麓に広がる生物多様性豊かな農村域を、エコツーリズムのフィールドとして活用することを目的に行うことになった。

(2) アドバイザー派遣実施の概要

日 時	平成 26 年 2 月 11 日 (火) ～平成 26 年 2 月 13 日 (木)
場 所	事前打合せ：鶯宿温泉(ホテル森の風) 情報交流・講演(セミナー)：小岩井農場(倶楽部会議室) 戦略会議：道の駅あねっこ 視察場所：松川温泉、東八幡平温泉郷、渋民地区(石川啄木記念館周辺)、御所湖、鶯宿温泉周辺、小岩井農場、岩手山周辺(焼走溶岩流、岩山公園など)等
アドバイザー	株式会社 アウトドアサポートシステム 代表取締役 北川 健司 氏* NPO 法人浅間山麓国際自然学校 理事長 橋詰 元良* NPO 法人富士山エコネット 理事長 三木 廣 氏* *環境省が予め就任を依頼したアドバイザー以外で、地域から推薦があった有識者
参加者	<事前打合せ・情報交流会参加者> しずくいし・いきいき暮らしネットワーク、岩手山自然ガイド協会設立準備会、岩手県登山ガイド協会、小岩井農場、安比高原自然学校、北海道や東北地方でエコツーリズムを進めている団体(NPO 法人岩木山自然学校、裏磐梯エコツーリズム協会、NPO 法人尻別川リバーネット、NPO 法人鳥海遊佐観光協会)の関係者の他に、地域住民、地元自治体(雫石町役場など)の職員、環岩手山ニューツーリズム研究会の会員(大学教授、NPO 関係者など)など 計 27 名 <講演(セミナー)> しずくいし・いきいき暮らしネットワーク、岩手山自然ガイド協会設立準備会、岩手県登山ガイド協会、小岩井農場、安比高原自然学校、北海道や東北地方でエコツーリズムを進めている団体(NPO 法人岩木山自然学校、裏磐梯エコツーリズム協会、NPO 法人尻別川リバーネット、NPO 法人鳥海遊佐観光協会)の関係者の他に、地域住民、地元の観光協会(雫石観光協会)、地元自治体(雫石町役場など)の職員、環岩手山ニューツーリズム研究会の会員(大学教授、NPO 関係者など)など 計 27 名 <戦略会議> しずくいし・いきいき暮らしネットワーク、岩手山自然ガイド協会設立準備会、岩手県登山ガイド協会、小岩井農場、安比高原自然学校、北海道や東北地方でエコツーリズムを進めている団体(NPO 法人岩木山自然学校、裏磐梯エコツーリズム協会、NPO 法人尻別川リバーネット、NPO 法人鳥海遊佐観光協会)の関係者など 計 14 名
スケジュール・方法	【1日目】 ・岩手山周辺の現地視察 松川温泉、東八幡平温泉郷、御所湖、鶯宿温泉などのツーリズム拠点を視察 ・事前打合せ

【2日目】

- ・小岩井農場など雫石町内の視察
- ・岩手山麓の生物多様性を活かしたツーリズムフォーラム(情報交流会)
橋詰氏、北川氏、三木氏はツーリズムフォーラムで講演
- ・名峰ツーリズム戦略会議

【3日目】

- ・岩手山麓の視察と現地指導
焼走溶岩流、八幡平市、滝沢村、岩山公園など

エコツーリズムを考える場合、屋久島や知床半島、白神山地など、人里離れた島嶼部や日常立ち入ることのすくない原生自然域でのガイド付きツアーをイメージすることが多いが、富士山麓や浅間山麓には教育旅行で年間多くの児童生徒が訪れており、教育旅行でのエコツアーが実施されている。また、木曽御岳や白山などでは溪谷や清流を活かしたアドベンチャー型のエコツアーを開催されている。岩手山は、富士山、浅間山、木曽御岳と同じく巨大な成層火山で溶岩流や火山麓扇状地、側火山などの共通した地形や環境もみられことから、岩手山麓でエコツーリズムを進めるにあたり、富士山や浅間山で展開されているエコツアーを取り入れた教育旅行、木曽御岳や白山周辺で行われている源流探検型のエコツアーについてアドバイザーからの助言指導を受けた。

(3) アドバイスの内容

三木廣氏(富士山エコネット理事長)、橋詰元良氏(浅間山麓国際自然学校理事長)、北川健司氏(アウトドアサポートシステム代表)とは、名峰山麓の景観や生物多様性を保全する活動に参加するプログラムを取り入れたエコツーリズムを「生物多様性ツーリズム」として進めるべく、講演を依頼し、情報交流と助言指導を求めた。

アドバイザーからのアドバイスは、事前打合せや現地視察、戦略会議で行われたが、基本的にはアドバイザーそれぞれがフィールドとしている富士山麓、浅間山麓、白山麓で取組んでいるエコツアーや教育旅行、自然学校事業を紹介する形で行われ、その内容は生物多様性ツーリズムフォーラム(情報交流会)での講演の中で凝縮されて紹介された。

以下、アドバイザーごとの講演内容でとくに重要で参考になった内容を記す。

●三木 廣さん(特定非営利活動法人 富士山エコネット 理事長)の講演

- ①特定非営利活動法人富士山エコネットの活動紹介
- ②富士山麓(青木ヶ原樹海など)における教育旅行エコツアーについて
- ③教育旅行エコツアーにおいて求められるプログラムづくりと事前学習
- ④必要とされるガイド(インストラクター)の数と質、その養成方法
- ⑤クリーン活動体験など環境保全活動について、エコツアー団体としての取組み

●橋詰元良さん(特定非営利活動法人 浅間山麓国際自然学校 代表理事)の講演

- ①特定非営利活動法人浅間山麓国際自然学校の活動紹介
- ②浅間山麓で実施されている教育旅行用ネイチャーガイドプログラムについて
- ③浅間一周ロングトレイルツアーなど、ロングトレイルツアーの具体的内容と運営方法
- ④レンゲツツジ群落保全など浅間山麓における生物多様性と景観保全の取組み
- ⑤自然保護・環境保全と観光事業の両立やカントリーコードについて

●北川健司さん（株式会社 アウトドアサポートシステム 代表取締役）の講演

- ①アウトドアサポートシステムの事業と会社紹介
- ②白山の山麓で実施されている自然学校(自然体験型環境学習)プログラムについて
- ③シャワークライミングなど源流環境を活用した探検型エコツアーの内容と収益性
- ④RAC(特定非営利活動法人川に学ぶ体験活動協議会)とガイドインストラクター養成
- ⑤名峰の環境を活かしたロングトレイル事業と健康トレッキング・ツアーなど



生物多様性フォーラムの会場となった
小岩井農場クラブハウス



生物多様性フォーラムの会場となった
小岩井農場の重要文化財



生物多様性フォーラムで公演中の橋詰アドバイザー



生物多様性フォーラムで席に座っている
北川アドバイザー（前列左側）と
三木アドバイザー（二列目、左から2番目）



生物多様性フォーラムでの
三木アドバイザーと橋詰アドバイザー



現地視察中の三木アドバイザー

(4) アドバイザー派遣実施の効果

●参加者や関係者に与えた効果

岩手山・八幡平地域においては、これまでの研修会や講演会、シンポジウムなどで「エコツーリズム」という概念は、定着しつつあり、地域の活性化や資源の掘り起し、ふるさとの再発見につながるという期待感があったが、これまで紹介されていた事例は、屋久島であったり、知床であったり、小笠原であったり、当地域のような街や農村域に近い環境をフィールドとしたものでなく、人里離れた自然域を訪ねるガイドツアーであったことから、あまり活動の参考になっていなかった。

また、ガイドツアーでは、少数のガイド団体だけに儲けが発生し、地域の活性化がはかれないことはもちろん、資源である自然が観光客によって踏みじられるというマイナス部分も見えており、エコツーリズムは難しいという絶望感もでていた。

そういう中、今回、名峰(巨大火山)地域と共通の環境をフィールドで活動する実践家をアドバイザーとして派遣され、実践事例をもってエコツーリズム事業の説明や助言を受けたことによって、岩手山地域で展開すべきエコツーリズムのイメージが具体的に見えるようになり、今後いっそうエコツーリズムに取り組もうという意欲が高まった。

●今後の期待される効果

地域的な差異はあるものの、同じく名峰を背景およびランドマーク、地域のシンボルにもっていることから、情報交流などでノウハウを共有することが可能になった。

とくに、岩手山には葛根田川の源流域は秘境をなす峡谷域が広がり、白山や木曾御岳周辺で実施されているシャワークライミングなど源流探検型のエコツアーを参考に、ブナ林や溪谷の生物多様性を活かしたツーリズムや教育旅行に取り組むことになった。

また、浅間山麓で展開しているロングトレイル事業については、岩手山地域で取り組んでいる山麓トレッキング事業にも大いに参考になり、今後、岩手山地域でも浅間山の取組みを参考に岩手山一周ロングトレイル事業に取り組む気運が高まった。

このロングトレイル事業は、全国の名峰地域とのネットワーク構築を進めるにあたり、有効な手段になるということ意見が一致したこと、浅間地域、大山地域、富士山地域など名峰地域を中心に日本の自然と風景を楽しむ「歩く観光」を取り入れた体験型エコツーリズム・プログラムを開発していこうという話しになった。

牧野地帯が広がる岩手山地域においては、雄大で牧歌的な山麓風景が広がっており、名峰を背景に牧場の環境をゆっくりと歩くロングトレイルは農村型エコツーリズムを進める上で大きな魅力になると期待される。

●今後の取り組み

「葛根田ブナ原生林」を含む南八幡平(岩手山地域)について、ワイズユースを考える検討会議を発足させるとともに、葛根田川源流域の自然環境調査とあわせて入山状況や環境悪化の状況について実態把握を進めるとともに、都市住民と地域の子どもたちが参加する現地見学会をエコツアーとして開催し、意見交流の場をもうけることで、都市住民や地域の子どもたちに検討会議への参加・出席を求め、「葛根田ブナ原生林」についてのワイズユースを進めるための地域ルールづくりを進める。また、南八幡平(環岩手山)こどもエコクラブの結成や、南八幡平の保全と活用を考える環境・エコツーリズムフォーラムなどを開催し、自然遺産としての「葛根田ブナ原生林」の魅力と資源性の情報発信をはかりながら、自主ルールについて地域の合意形成をはかる。

(5) アドバイザー派遣を実施して（地域からの声）

●参考となった事項

エージェント(旅行業者)との関係、歩く観光に人気が高まっていること、ツアープログラムの開発、ガイドの管理、体験型観光の需要の高まりなどについて、先進的かつ実践的な活動を通じての話しには説得力があり、これから当地域において本格的にエコツーリズム事業を展開する上で大いに参考になった。

とりわけ、エコツーリズムを展開していく上では、優秀なガイドの存在が不可欠といわれていたが、特定非営利活動法人富士山エコネット代表の三木廣さんの話しからは、ガイドも大切であるが、ガイドの個人的技能や知識に頼るのでなく、しっかりとしたガイド・プログラムをつくって、ガイド組織全体でチームワークをもって事業に取り組むことが重要との話しは、たいへん参考になり、共感ももてた。

また、特定非営利活動法人浅間山麓国際自然学校は、上信越国立公園浅間山地区の公園管理団体となって、浅間山麓の生物多様性や景観の保全活動を進めており、橋詰元良さんの話しから、これら環境保全活動そのものが今後のエコツアーでの体験プログラムとなるという実感を得ることができた。

さらに、北川健司さんの事業紹介からは、冒険・探検的な要素を取り入れた源流エコツーリズムについての需要の高まりについて情報を得ることができ、それに伴うリスクマネジメントの重要性や、求められるガイド・インストラクターの質について勉強になり、今後の事業展開を考える上での参考になると同時に、北川さん、三木さん、橋詰さんらとの活動ネットワークを拡大させていきたいと考えている。

●その他感想

今回、講師に富士山や浅間山、木曾御岳、白山の山麓でエコツーリズムを実践的に展開する団体の代表を招いて現地指導や講演会をおこなったが、当初、これらの地域は富士五湖や軽井沢などの有名観光地を有し、首都圏にも近いことから、集客面において岩手山地域より有利な状況にあると考えていた。実際に助言を受け、話しを聞く中で、大都市に近い分、開発も進み、自然生態系はもちろん、昔懐かしい景観や歴史的資源も失われていることがわかり、岩手山地域は資源面において、富士山や浅間山の山麓よりのエコツーリズム事業を展開する上において有利ということもわかった。

後は、この残された自然や景観、文化資源を上手く活用したエコツーリズム・プログラムをどのように開発し、それを運営する人材育成や運営組織づくりをどう進めていくかであり、今後も富士山や浅間山、木曾御岳、白山などの名峰地域と情報交流を進めながらそれに取り組んでいこうと考えている。

(6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

株式会社アウトドアサポートシステム 代表取締役 北川 健司 氏

●地域におけるエコツーリズム推進の取組の現状と課題

雫石町は、盛岡市に隣接し、交通網など恵まれ、参加者を集めやすい環境にある。

また、自然豊かな地域で四季を通じて活用できる資源が豊富だ。

エコツーリズム事業やガイドの参画者は、年齢的にも幅があり今後の取り組みにも期待が持てる状態だ。

現在取り組んでいる方々は積極的な取り組みで雰囲気もいいと感じた。

エコツーリズムを理解し、活動しようとしている団体や個人も多数あるが、ネットワークとしての活動も進みつつあるように感じた。

現状では、ガイドの数が少なく、地域や周辺からさらなる参画者を求める働きも必要だ。

地域の事をよく知る地元の人を中心であるが、ネットワークを作って地域の魅力を生かしたプログラムを開発し、ニーズに合わせた商品作りをしていく余地は多くあると感じた。

現状の参画者には自分たちの好きなスタイルは完成されているので、それを生かして対象者にあったプログラム作りを考える事ができれば、いいプログラム作りができるはずだ。

●特に魅力を感じた地域の自然観光資源

今回、冬のフィールドを見たが豊富な雪が魅力的だ。広大な農地や牧場も冬なら利用できる余地はあるだろう。

さらに魅力的な温泉地や宿泊施設が豊富にあり、それらとの連携により更に魅力つけをできる。広域ではあるがコンパクトにまとまっている。

歴史や文化も点在しており、大きな祭りが毎月のようにある、その時期に合わせて祭りの前後にプログラムを企画すると魅力を生かせると思う。例えば、馬の祭りの前後に乗馬体験をしたり、祭りの準備を見ることができれば、さらに多角的な体験ができるだろう。

地域の味や飲物、お菓子や名物料理もとても豊富にある。

食・宿・温泉・祭り・文化・山・川・森の全てが充実しているため、それらと連携したイメージのメニュー開発をすれば、全てのシーズンに魅力的な商品づくりが可能だ。

現状の課題は、地域をつなぐ人、魅力的なツアーの企画開発者、旅行社や情報伝達手段などの構築だろう。

●アドバイス（講義等）の概要

白山や乗鞍岳、長良川での私たちの取り組みや指導者育成、行政や他団体との協働イベントやネットワーク作りの仕掛けなど、実際の企画者の立場でお話をした。

特に地域での連携による催しや講習会、各種全国大会の誘致など注目されるエコツーリズムの実施地域となる手法などお伝えした。

白山周辺でのツアーやイベントの実際、乗鞍高原で取り組む子どもたちの団体誘致、御母衣湖の利用促進事業、地域社会や地域行政、地域の人、団体との連携から作る新しい催事などを具体的に紹介した。

また、長期にわたる人材育成事業から創出した地域での若者の起業など指導者育成から自立を促進するための視点などもお話しした。

●全体構想への取組状況・意向について

いくつかの団体がそれぞれに組み組んでいるが、人材不足や日常業務の忙しさから、全体構想までの取り組み

や地域のつながりができるには時間がかかりそうでした。

地域をつなぐコーディネーターが望まれると感じました。

民間だけではなく地域行政など公的機関がネットワークの促進や企画作りのための援助をすれば、より構想が早期に進むと思う。

●地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

歴史のある地域なので人材は豊富にあると思えた。それぞれの活動の中から目指す将来像の共通認識を図っていけば、その先に協働して作っていける道もあると思います。

各団体の活動の活発化のために、新たな人材の育成や発掘、ニーズの掘り起こしとなる魅力的な商品作り、販売ルートの確立も必要です。

素材はそろっているが、顧客の嗜好するメニュー作りと料理人の発掘と養成、魅力のあるコース料理として仕上げられたエコツアー商品作りが必要だ。

販売体制や広報の整備から顧客につなげることが今後の課題だ。

東北に対する特別な支援のある期間に、東北の魅力を発見するエコツアーを多く完成させて震災で離れた旅行者や学校団体を取り戻してほしい。

素材は一流品なので自信を持ってプログラムや商品作りを進めてほしい。

NPO 法人 浅間山麓国際自然学校 理事長 橋詰 元良 氏

●地域におけるエコツーリズム推進の取組の現状と課題

今回派遣先の岩手県雫石町では小岩井農場を中心に散策のガイド団体が複数団体ありそれぞれの活動エリアでエコツーリズム等を推進しているようであるが、各団体のスキルが一定ではなく、ボランティア団体を含めてガイド内容やガイドのスキルにかなりの格差があるように見受けられた。エコツーリズムに関する取り組みについてはボランティアのガイド団体を含めてエコツーリズム推進への意欲は感じられるが、複数の団体がそれぞれに活動指針を持ちバラバラな活動をしているように見受けられ、岩手県雫石町のエコツーリズムとして窓口の一本化をすることによる、活動エリアの多様化、各団体の連携強化が課題であると感じた。

●特に魅力を感じた地域の自然観光資源

この地域は岩手山南麓に広がる小岩井農場約 3,000ha を中心に北側には岩手山の雄大な自然があり、南には田畑が広がり、自然環境観光資源としては大自然をそのまま残す十和田八幡平国立公園の中にある岩手山、その裾野に広がる広大な牧場、小岩井農場の里山的な自然環境及び景観、葛根田川流域に広がる田畑地帯、それらを一体的に見た時に自然と人の生活とが共存している素晴らしい自然観光資源であると感じた。

小岩井農場の草地や営農の風景と牧場内にある森林帯が里山的な自然景観として岩手山と葛根田川流域に広がる田畑を繋いでいる印象を受け、人が生活する中で残されてきた自然景観として、発展している里山としての価値は非常に高いものであると感じた。

また、小岩井農場の草地、森林帯における人や牛（家畜）を含めた生物多様性についても他では見られない自然観光資源であると感じた。

●アドバイス（講義等）の概要

私が活動している浅間山麓周辺地域の一つである長野県東御市湯の丸高原は、明治 37 年に牧場として開場し、当時は数百頭の牛が放牧されていたが畜産業の衰退や輸入飼料の増加などにより年々放牧数が減少し、現在では 10 数頭にまで落ち込んでしまっている。湯の丸高原は牧場が開場したことにより、牛馬の忌避植物であるレンゲツツジだけが食べられず残ったため当時約 90 万株のレンゲツツジの群落が誕生した経緯があるが、現在放牧数の減少とともにレンゲツツジの株数も約 40 万株に減少している状況である。

私たちの自然学校では、この減少傾向にあるレンゲツツジ群落の保全について、この地域で絶滅危惧種に指定されている高山蝶「ミヤマシロチョウ」の保全も含めて、レンゲツツジとミヤマシロチョウを象徴とした生物多様性の保全活動を行っている内容についてお話をさせていただき、併せて浅間山麓周辺の自然観光資源との連携やそれを取りまとめる窓口や委員会の設置等についてお話をさせていただいた。

湯の丸高原や小岩井農場のような人の手の入った自然（里山）においては人を含めた生物多様性を考える必要がある事、自然散策等のガイドについてはそのスキルの平準化と向上するための研修が不可欠である事、生物多様性を考える時に一部エリアではなく山から平地まで全体の多様性を考える事、全体を考えるに当たり各種ガイド団体の一本化が必要な事などを提案させていただいた。

また、点在する資源を繋ぐ方法の一つとして、今ブームとなっているロングトレイルの導入が有効な事も、私たちが実践している浅間ロングトレイルの事例を交えて提案させていただいた。

●全体構想への取組状況・意向について

小岩井農場を中心とした生物多様性の保全及び観光資源としての活用については非常に面白い取り組みである

と感じた。現に小岩井農場ではフットパス的な観光取組がされているということなので、出来れば農場のみならず岩手山を含むその周辺に対しても生物多様性の概念を取り入れた保全や活用を実施して行けば更に幅が広がり町ぐるみの展開へと発展していく可能性があると感じた。

各種自然観光地域及びガイド団体の一本化を図る必要があると感じ、まずは「しずくいし・いきいき暮らしネット」等が中心となり連絡協議会的な情報交換ができるような会議を設ける必要があると考える。そこがバラバラだとガイドのスキルの平準化も全体的な底上げも思うように行かず、観光客も回遊性がないため飽きが来てしまうような気がする。観光客目線からも問い合わせや申し込みは一か所で、そこから様々なメニューやニーズに合ったプログラムを提供できるシステムが必要であると感じている。

生物多様性の保全や活用については、それなりの調査等が必要と考える。

以上のような観点から、エコツーリズム推進法による全体構想の作成および認定については、エリア内の十分な調査を必要とすることとエコツーリズムに関するプログラムの開発やガイドの育成が不可欠であるので、現段階では次期尚早と言える。また、全体構想の作成には市町村が大きいかかわってくることもあり、当地では単に雫石町のみならず周辺市町村（八幡平市、滝沢市）及びそれらの地域の各種エコツーリズムに係る団体とも連携を取る必要があるので、まずは広域的な連絡協議会のような組織で検討を重ねていかなければならないと考える。しかしながら当地域で現在活動している団体はそこまで広範囲に手を広げられる状況にないと思われ、当面は雫石町の岩手山麓を中心に調査を実施しガイドの養成及びスキルアップ、各エコツーリズム団体のスキルの平準化を目指すべきであると考え、全体構想の作成および認定については次のステップであると思われる。

また、全体構想を考える時にはオーバーユースによる踏み荒らしや希少種、絶滅危惧種の保護の観点から特定自然観光資源の指定が重要であると思うので、今後のエコツーリズムに関する観光客の動向や周辺の植生等の調査が必須である。現状の雫石町のエコツーリズムとしては、将来的に全体構想の作成を目標として、まず雫石町での連携を強化して活動していくことが望ましいと考える。

●地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

雫石町は先述したように、岩手山南麓に広がる小岩井農場約 3,000ha を中心に北側には岩手山の雄大な自然があり、南には田畑が広がり自然環境観光資源としては大自然をそのまま残す十和田八幡平国立公園の中にある岩手山、その裾野に広がる広大な牧場、小岩井農場の里山的な自然環境及び景観、葛根田川流域に広がる田畑地帯、それらを一体的に見た時に自然と人の生活とが共存している素晴らしい自然観光資源であり、多くの人がその環境や景観を活用して地域振興や観光振興に活用したいという意欲も強く感じているので、早い段階で同じ目標を持つ各種団体の連携を強化していくことが、地域全体の生物多様性の保全や活用について、またエコツーリズムの推進について重要であると考えます。

この地域のエコツーリズムについては現状実践者がおり成功している感があるので、それをさらに膨らませるためにも、生物多様性の概念の共有や各団体の連携強化を図ることにより、更に素晴らしい自然豊かな生物多様性エコツーリズムの町となると考える。

将来的に広大な里山としての自然景観について、人の生活を含めた生物多様性の概念がこの雫石町から全国に発信できることを大きく期待している。

NPO 法人富士山エコネット 理事長 三木 廣 氏

●地域におけるエコツーリズム推進の取組の現状と課題

岩手山の南麓雫石町でエコツーリズム事業を展開されている「NPO 法人しずくいし・いきいき暮らしネットワーク」（以下、「いきいき暮らしネットワーク」）のお招きで、今回その一部を視察させていただき、また同様の岩手のほかの団体とも意見交換をさせていただいた。その過程において当団体の成功事例を紹介することで、地域、環境は違えども当団体の実践の一部が雫石での活動の一助になれば幸いである。

話し合いの中で、個人的には、岩手県のほかの平泉、花巻、遠野などに比べ、雫石という地域の持つ特徴がまだまだ一般に知られていないのではないかと感じた。「小岩井農場」など全国的に有名な場所を「点」で知ってはいても、それが雫石全体のイメージにはなっていないと思う。今後「いきいき暮らしネットワーク」が中心となり地域の活性化により知名度もあげていくことが期待される。

●特に魅力を感じた地域の自然観光資源

「小岩井農場」ではすでに積極的にエコツーリズム推進に向けての活動を展開しており、多くの観光客が毎年訪れている。雄大で美しい自然に囲まれ、長年にわたる人々の開拓の歴史の中で育まれた 3,000ha におよぶ広大な牧場は、自然と見事に調和した景観、飼われている動物たちと自然界の生き物たちとの多様性に対する配慮も十分に感じられる。

岩手山から八幡平へと広がる葛根田溪谷は手付かずの自然が残されており、ブナ林を中心とした多くの広葉樹の森の散策は、自然との一体感を十分に満喫できる。また、周辺には秘湯と呼ぶにふさわしい鶯宿、つなぎ、網張などの豊富な温泉地が点在しており、長逗留にもふさわしい。名峰岩手山を象徴とした変化に富んだ自然や温泉をメインに歴史、文化、食などを取り入れることで、あらゆるニーズに対応しうる可能性を多分に秘めている。

●アドバイス（講義等）の概要

当団体（富士山エコネット）は教育旅行が中心であり、年間平均 140 団体 2 万 5000 人の方が参加されている。一般旅行と異なる点は、必ずしも好きで参加している方ばかりではない。その方たちにも満足感を与えるためには、案内する側がここぞという場所を自信を持って選定することだと思う。（当団体では青木が原樹海と富士山五合目お中道のエコツアー）その唯一の場所でしか体験できない自然の中をとにかく歩くことで体感させることが重要である。次に、ただ歩くよりは多少の知識があるほうがよりツアーが楽しくなるということを知っていただくためにインストラクターの説明があるという位置づけである。頭からの知識の押し付けではなく、ともに考えるための入り口を提供することにより、少しでも自然や環境、生物の多様性に興味をもってもらいたければというコンセプトをガイドみんなが共有している。楽しくなければツアーは続かない。また独りよがりの解説では誰も聞かない。自然に対しては謙虚に接し、ともに考えるという姿勢を持ち続けることだと思う。当団体のリピーターが約 7 割を超えているのも、このコンセプトがお客様に多少ともご理解いただけている結果ではと自負している。とはいえ、富士山の知名度はあっても当団体の知名度はもとよりエコツアー自体も知名度があるとはいえない。雫石であれ富士山であれ自然の資源を活用し、お客様に来ていただくために、自分たちの地域の自然環境の素晴らしさをどのように発信させていくかも大切である。

●全体構想への取組状況・意向について

上記したように、まずは「雫石」の知名度をより上げるために、現状の活動を地域全体で見直し、おのおのの団体の成功例を持ち寄り、特化していくことが望まれる。そのための全体的な主導的役割を、地元に着目している「い

きいき暮らしネットワーク」が担っていただきたい。それぞれの団体の統一性がないと総花的になり、一般の人々にはなかなか全般的なよさが伝わりにくいと思う。メインとなる体験・ツアーを他団体の地元をよく知る皆さん方と話し合い確立し、それを中心にいかに全国的に売り込んでいくかの戦略も必要である。「小岩井農場」ではすでにエコツーリズムを実践し、多くのお客様が訪れている。お互い協力しあって雫石全体を発展させていくという構想を明確にし、その実践と結果により地域全体に貢献してほしい。雫石はそれに答えうる自然資源を十分に有している。

●地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

富士山は知名度があると同時に、現在 30 をも超えるツアー団体が活動している。当地域から見ると雫石はまだまだこれからの可能性を秘めている。手付かずの自然の豊かさという意味においては富士山の比ではない。貴重な生物の多様性を維持し、環境を保全しながら多くのお客様を呼び込み、地域の活性化につなげるという、まさにエコツーリズムのモデルにふさわしい状況だと思う。今後も一つ一つ実践されていく過程において、当団体とも交流を密にし情報交換しながら、お互いの目指すエコツーリズムの推進を進めてほしい。